



「資産運用業宣言2020」と当社の取り組み

2022年3月

UBSアセット・マネジメント株式会社

©UBS 2022. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。



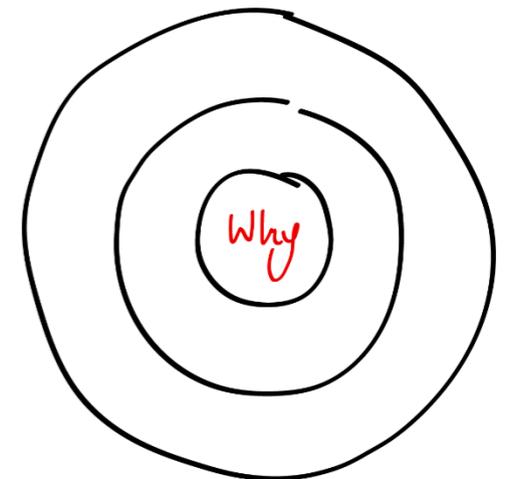
「資産運用業宣言2020」と当社の取り組み

2020年11月16日、投資信託協会と日本投資顧問業協会との共催により開催された資産運用業フォーラムにおいて「**資産運用業宣言2020**」が採択されました。

当社はこの宣言に賛同するとともに、その実現に向けた具体的な取り組み状況を公表することといたしました。

UBS Purpose

Reimagining the power of investing.
Connecting people for a better world.



～ 資産運用業宣言2020【社会的使命】～

資産運用会社の使命は、皆さまの安定的な資産形成に向けて最善を尽くすと共に、そのための投資活動を通じて社会課題の解決を促し、皆さまの豊かな暮らしと持続可能な社会の実現に貢献することです。

UBSグループでは、パーパス(存在理由)として“Reimagining the power of investing. Connecting people for a better world.”を掲げています。これはすなわち、投資の持つ力を改めて認識し、世界中のステークホルダーをつなげてより良い世界を築くということを宣言し、グローバルで活動を行う資産運用を中核とした金融機関として責任ある投資を前提に、株主、顧客、従業員、取引先その他のすべての関係者のために活動することを誓うものです。

また、アセット・マネジメント部門では、“Sustainable outcomes, without compromise”をバリュープロポジション(提供価値)とし、持続可能な企業活動を通じて顧客の安定的な資産形成のために全力を尽くすとともに、サステナブル投資の推進を通じて、資産運用会社として持続可能な社会の実現に貢献することをその目標としています。

なお、続いて私たちの考える【目指すべき姿】についてご説明します。



Sustainable
outcomes,
without
compromise

We bring you independent ideas
and thinking

[Learn about our commitment >](#)

UBSアセット・マネジメントのバリュープロポジションについては[こちら\(英文サイト\)](#)をご覧ください。

～ 資産運用業宣言2020【目指すべき姿《専門性と創造性の追求》】～

最良の運用成果と付加価値の高いサービスを提供するために、皆さまから大切な資産の運用を託されていることを役職員一人ひとりがしっかりと自覚し、その責任と誇りを持ち、常に高い専門性と多様な創造性を追求します。

弊社は、前述のパーパスとバリュープロポジションに加え、中でも、顧客に最良な運用サービスの提供のためには、従業員に対する適切な動機づけが不可欠であると考え、「Behaviors」においては、その構成要素として以下を掲げ、これを年次の評価項目としています：

- Accountability with integrity — 「責任意識を持って誠実に取り組む」
- Collaboration — 「グループ一丸となって業務に取り組む」
- Innovation — 「より良いサービスのため日々進歩する」



Our Pillars

What we're built on.

Capital strength

A balance sheet for all seasons

Simplification and efficiency

Make it easy to do business

Risk management

Anticipate and handle risk effectively

Our Principles

What we stand for.

Client centricity

Clients are at the heart of everything we do

Connectivity

Create success by connecting people, ideas and opportunities

Sustainable impact

Act today with tomorrow in mind

Our Behaviors

How we do it.

Accountability with integrity

Take ownership

Collaboration

Work as one UBS

Innovation

Improve every day

～ 資産運用業宣言2020【目指すべき姿《専門性と創造性の追求》—続き】～

単年度の業績評価だけでなく、このような行動指針に基づいての評価も行うことで、長期に正しい企業文化を醸成、維持することに努めています。また、質の高い資産運用サービスをお届けすべく、特に運用者の評価については、運用しているファンドのパフォーマンスも評価に反映させる仕組みとなっています。これらの仕組みが、顧客に長期に支持される資産運用会社たるために貢献するものと確信しています。また、各種トレーニングや、部門を超えたメンタリング・プログラムなども実施しており、資産運用会社の意義を様々なかたちで社内に伝えるとともに、従業員一人ひとりの高い専門性の維持向上に努めています。



～ 資産運用業宣言2020【目指すべき姿《顧客利益の最優先》】～

皆さまの資産の長期的利益を最優先することは、運用を託される我々資産運用業の拠って立つところであり、その徹底のために様々な取り組みを常に追い求め、皆さまからのご期待にお応えします

UBSアセット・マネジメントでは、前述の「成功への3つの鍵」のうち「Principles」において、下記の徹底を定めています。これにより、お客様の長期的な利益を第一とし、優れた資産運用サービスを提供するという運用会社としての使命の下、運用部門、営業部門から管理部門に至るまで、質の高いサービスを提供し続けるための不断の取り組みが、お客様の最善の利益の追求に繋がるとの意識を共有しています。

- Client Centricity — 常にお客様のことを考え行動する
- Connectivity — 人とアイデア、企業を結び付けることで成功を生み出す
- Sustainable impact — 明日を見据えて行動する

なお、情報発信にも努め、右のような投資情報を投資信託販売会社の皆様に提供し、ご好評いただいています。

販売会社様内限り
UBSアセット・マネジメント株式会社 | 2021年11月

 UBS

UBS 投資情報

【ランチブレイク・オミクロン変異株、市場への影響は?】



本日の投資ネタは、「新たな変異株の出現、各市場の反応は?」、「オミクロン株のリスク、UBSの現時点での見方」です。

- 当社では「UBS投資情報」を通じて、販売会社の皆様に向けた最新の投資関連情報の配信に取り組んでおります。
- 【損んでおきたい本日の投資ネタ】では、最新のグローバル金融市場、政治・経済の動きに当社の分析を加え、コンパクトにまとめてお届けしてまいります。

ぜひ、お仕事の合間に一読ください。

 <筆者について>
UBSアセット・マネジメント株式会社
投資営業本部 投資情報アナリスト
飯尾 健司

1993年に大手邦銀入社後、日米欧の大手銀行の運用部門に従事。金利、為替デューラーを経て、外債、為替、国内外の株式運用、オルタナティブと幅広いアセットの運用を20年以上担当。現在、当社では投資情報アナリストとして、UBSグループの投資戦略情報に基づき、マクロ政治経済、金融市場を中心とした幅広い分野において、独自の視点で情報提供を行っている。「UBS投資情報」シリーズを執筆、日々配信中。

～ 資産運用業宣言2020【目指すべき姿《顧客利益の優先》－続き】～

利益相反の適切な管理：UBSグループでは、質の高いサービスをお客様に提供すべく、ビジネス上の関係者と正しく規律を持った関係を維持するため、利益相反の可能性について正確に把握するよう努め、お客様の利益が損なわれる恐れがあると考えられる場合には、適切な管理を行います。

具体的には、利益相反管理方針に基づき、当社が行う投資運用業を含む業務全般における取引・行為について、その内容、関連する取引及び関係者、利益相反の可能性の状況などを勘案し、お客様の利益が不当に害される恐れのある取引を管理対象として指定、類型化して管理を行います。

利益相反管理方針の概要は当社ホームページにて公表しています。[\(利益相反管理方針の概要\)](#)

利益相反管理の重要性と管理体制を全従業員に周知し、適切な管理を行うため、以下の取り組みを実施しています。

- ✓ 利益相反管理を主要テーマとしたオンライン研修をグローバルの全従業員向けに定期的に実施するほか、利益相反管理を含むコンプライアンス研修を日本の全従業員向けに入社時および年次で実施
- ✓ 利益相反管理方針を含む重要な社内規程について、よく読み内容を理解したことをオンラインで確認する手続を、全従業員向けに入社時および年次で実施
- ✓ 各部の責任者は、月次の自主点検項目として、利益相反管理方針に基づく管理状況をコンプライアンス部門に報告、コンプライアンス部門は、経営に重大な影響を与える、または顧客の利益が著しく阻害される事項が発生した場合もしくはその恐れがある場合、速やかにリスク委員会に報告する体制としています。

～ 資産運用業宣言2020【目指すべき姿《責任ある投資活動》】～

専門的な調査活動や投資先の企業などとの積極的な対話といった責任ある投資活動を通じ、運用資産の価値向上を図り、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

UBSアセット・マネジメントは20年以上にわたるサステナブル投資への取り組み実績を有し、2020年には世界の主要な資産運用会社から成る「Net Zero Asset Managers initiative」に、設立メンバーとして参画しました。これは、資産運用会社として、お客様の資産運用における脱炭素化の目標の達成を支援する、という当社の強い意志を表しています。

私たちは、投資家の皆様が、私たちが今、生きている世界の現状を変える力を持っていると信じています。今後とも、気候変動問題への投資枠組みのご提供などを通じて、今、人類が直面する気候変動問題、また、よりよい地球の未来を目指す様々な取り組みへ、お客様の貢献が可能となるよう支援を続ける運用会社であり続けることを目指して、最良な運用とサービスの提供に努めて参ります。

Interim net zero target

NET ZERO ASSET MANAGERS INITIATIVE

USD 235 billion

UBS AM commitment to align 35% of eligible AuM to net zero by 2030

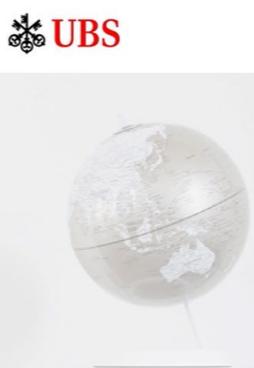
UBSアセット・マネジメントが参加する“Net Zero Asset Managers initiatives”については[こちら\(英文サイト\)](#)をご覧ください。

～ 資産運用業宣言2020【目指すべき姿《責任ある投資活動》—続き】～

また、私たちは、投資家の皆様の資産運用における「サステナブル投資」の観点の取り入れが、ダウンサイド・リスクの低減と幅広い環境(E)・社会(S)・ガバナンス(G)に関連するテーマへの投資機会へとつながり、お客様の資産運用における運用成果の向上に繋がると確信しています。当社のサステナブル投資の手法は、洗練された投資分析や企業との密な対話等を通じて得た、幅広い情報を踏まえたものであり、それらがよりよい投資判断につながっていると考えます。

長期的な投資機会を発掘し、投資対象企業の財務上の重大なリスクを予測・管理しながら、様々なサステナブル投資関連の情報を提供する社外機関と効率的に提携し、ESGの観点を踏まえた運用商品やサービスを生み出すことにより、投資家の皆様へ長期にわたる運用成果をご提供することと、社会や環境によい影響を与えることが可能になると信じています。

なお、情報発信にも努め、2021年10月には「UBS気候変動セミナー」を実施し、120名を超える機関投資家および投資信託販売会社の皆様にご参加いただきました。



UBS

UBSアセット・マネジメント
UBS気候変動セミナー2021

UBSにおけるサステナブル投資の取り組み

サステナブル投資に率先して取り組んできたUBSによる運用リターンとESG目標の追求



- インパクト投資:** 投資リターンを追求しつつ、社会や環境に対して計測可能なインパクトを生み出すことを目指す、企業およびプロジェクトへの投資手法
- サステナビリティ重視型:** サステナビリティ評価を投資対象設定や運用プロセスの主要な構成要素とする運用戦略
ベスト・イン・クラス型: 強固なESG特性と良好なファンダメンタルズを兼ね備える企業への投資
テーマ型: 気候変動、食糧、水、再生エネルギーなど特定のテーマに焦点を当てたアプローチ
- ESG統合型:** ファンダメンタル分析手法の一部にESG評価を統合することで、企業分析の精度向上を追求し、リスク・リターン特性の改善を目指す運用戦略
- リスク管理(ベンチマーク近似)・排除基準型:** ベンチマークのリスク・リターン特性に近似させつつ、ESG目標を有意に追求する運用戦略
社会面、環境面、倫理面で特定の基準に達せず、投資家の価値観から排除する企業やセクターを投資対象から除外する運用アプローチ
- 議決権行使と積極的な企業との対話(スチュワードシップ活動)**
- 計測とレポート**

上記はイメージ図です。
出典: UBSアセット・マネジメント

UBS

～ 資産運用業宣言2020【目指すべき姿《信認の獲得》】～

運用哲学をはじめ自らの強みを明らかにし、切磋琢磨しながら、運用力や提供する商品・サービスの更なる向上を図ることで、今まで以上に皆さまにご信認いただき、より多くの資産の運用を託されることを目指します。

弊社は顧客にふさわしいサービスの提供こそが信認にもっとも欠かせないと考え、「企画検討段階」、「商品提案直前」、「商品提供後」の三段階でお客様にふさわしいサービスの提供を行うべく、次のような取り組みをしています。

- 企画検討段階: 商品を提案する前の企画検討段階では、資産運用の専門家として推奨できる質の高い商品群を基礎に、営業部門を中心にお客様のニーズを広く調査します。それらの情報を関係部門と共有した上で、運用商品の持続的な提供について深く考察します。
- 商品提案直前: 最終的な商品提案の前には、全部門が参加する、新規ビジネス承認会議においてその適切性等を審査します。
- 商品提供後: 定期的に行うプロダクトレビュー会議において、適切性や持続可能性を確認しています。



～ 資産運用業宣言2020【目指すべき姿《信認の獲得》—続き】～

昨今のデジタル化およびテクノロジーの急速な進歩にともない、これを取り入れることで運用成績の向上および、業務の効率化・高質化に、全社を挙げて取り組んでいます。

- Quantitative Evidence & Data Science (QED)チームを立ち上げ、膨大なデータを活用して運用アイデアの創出や、市場・企業分析の深化、運用モデルの開発に取り組んでいます。なお、QEDチームは20名に近い規模で、世界各地からメンバーを集めました。
- AIを活用し、スクリーニングを自動化することで2万を超える投資可能銘柄にたいする評価モデルの構築を効率的に行ったり、ディスカウントキャッシュフローモデルを構築し、運用アイデアを様々な企業群や切り口でシミュレーションするなど、運用プロセスの高度化のための挑戦を続けています。
- 数年をかけたプロジェクトを経て、2021年にはグローバルのアカウンティングプラットフォームを最新のものに置き換えました。
- 日本での情報発信および営業活動でも、オンライン形式の勉強会を多数開催し、デジタルコンテンツによる情報発信を積極的に進めています。

